

令和3年度事業報告書

社会福祉法人さくらの家

令和3年度社会福祉法人さくらの家事業報告

1 基本方針への取り組み

全国的に新型コロナウイルスが蔓延する中、さくらの家祭りの中止、送迎プランの見直し、3密の回避、消毒の励行などを行い感染予防に努め、利用者が安心してさくらの家を利用してもらえるように対応を行った。そうした状況の中で、法人理念を達成するために、さくらの家を利用する方たちが、自分の仕事や活動に対し生きがいを持てるように、また安全で楽しい余暇活動、清潔で快適な生活を送るために、職員が一丸となって支援を行った。

3年度の重点目標は『「利用者の権利を守る」という部分にスポットを当て、自己決定支援やエンパワメントなど権利擁護の視点を共有し、決して利用者の人権が損なわれることの無い様、支援の質を向上させていく。』『利用者の「働くこと」の意味を今一度取り上げる』ことと、「働く」ことを今一度意識して深めていくことであった。

具体的な取り組みとしては、職員研修等で、利用者の権利擁護をテーマにしたグループワークを行い、どのような関りが権利侵害に繋がっていくのか、そうならないためにはどのように心がけていくとよいのかということ学ぶ機会を設けた。また、コロナ化でB型事業所の虹売店の営業ができない中、虹売店の利用者の仕事を同じB型内の弁当班や喫茶いこい等、利用者の特性に配慮しながら働く場所の確保を工夫して確保できた。

来年度以降も引き続き、権利擁護の視点と、働くことの視点を意識しさらに深めていくことが求められる。

2 主要事業等の取り組み

(1) 障がい福祉サービス事業及び職員体制について

定款、運営規程に則り下記の福祉サービス事業を実施した。4月から養護学校より新しい利用者を1名受け入れた。年度途中にも1名の利用者が利用を開始された。

各部署職員の病気休暇等があり運営体制が厳しくなる時期もあったが各部門の応援体制を取り対応した。

事業所名	サービス内容
生活介護事業さくらの家	生活介護（石けん班・委託1班・委託2班）
生活介護事業げんき工房	生活介護（なごみ班・うみだす班・そだてる班・きらめき班）、日中一時支援、短期入所
ワークスペースさくらの家	就労継続支援B型（くすの木弁当・喫茶ひ

	まわり・キッチンすまいる・虹売店・喫茶いこい)
ヘルパーステーション おおきな木	居宅介護事業
相談支援事業所さくらの家	特定・一般・障害児相談支援事業
もみじホーム	共同生活援助事業 (たいよう・すばる・すみれ)

(2) 新しい生活介護事業所の開設

さくらの家本所以外の場所での生活介護事業所の開設を目指したが、適当な借入物件が無く事業所運営の方向性が定められず、開設に至らなかった。

(3) 財政運営と会計管理の透明性の確保

現行制度に合わせ加算を申請し、適正に報酬請求することで経営の安定につなげることができた。また、新型コロナウイルスに関する助成金も適宜受け運営資金に活用した。加えて、職員に事業説明を行い、法人の予算や財政状況を周知し、適正な予算運用について、職員同士が共有して取り組むことができた。

令和2年度から引き続き、福祉・介護職員等特定処遇改善加算の届け出を行い、介護職員の処遇改善に取り組んだ。

(4) 非常災害避難計画及び避難訓練の実施

「さくらの家非常災害対策計画」「土砂災害時の避難確保計画」「浸水時の避難確保計画」「社会福祉施設における原子力災害にかかる避難計画」に準じ、火災訓練、避難訓練を年1回実施した。

(5) 施設・設備整備事業

① 弁当班増築工事

弁当班の弁当製造数の拡大を図ること、また利用者職員の休憩スペースの確保のため、島根県・国の補助金を受け増築工事を行った。配膳室を活用して弁当製造を増やし工賃の向上に向けた取り組みが行えることになった。

(6) 職員のスキルアップ事業

資格取得勸奨を積極的に行い、金銭面での資格取得援助を行った。今年度は1名の精神保健福祉士、1名の社会福祉士の合格者があった。また、法人内部研修として、全職員を対象とした内部研修を2回行い、チームリーダー

研修、中堅職員研修を定期的に行い、職員の資質向上に努め、サービスの底上げを図った。

(7) 広報活動

さくらの家の活動の様子を広報誌・ホームページ・Facebookを通じ、利用者・ご家族・地域社会に向けて発信した。特にFacebookでは、概ね2週間に1回の頻度で情報発信し、各班の様子や研修・行事の様子をオンタイムで届け、広くさくらの家の認知度を上げることができた。

(8) 職場環境改善事業

職員が身体介護を行う際の、移乗介助を補助する介護ロボットを導入し、移乗介助の際、職員の腰への負担を軽減させるための仕組みを導入した。

これは障がい福祉分野のロボット導入支援事業補助金を松江市から受けて行ったものである。

(9) 虐待防止対策

島根県虐待防止研修会参加や「さくらさくら」(さくらの家倫理綱領)の振り返り、グループリーダー会等でのサービス向上の取り組み、職員同士の情報交換等を通して虐待防止に積極的に取り組んだ。また虐待防止委員会を開催し、ヒヤリハットやケースの検討などを行い職員の意識高揚に努めた。

(10) 危機管理の体制強化

① 感染症予防(一般)

嘱託医師や看護師の指導のもと、職員に対策(消毒の徹底、嘔吐等の適切な処置等)を徹底し適切に行うことができた。インフルエンザ予防注射の費用助成も行った。

② 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルスの流行にあたり、外部団体や地域住民を招いての「さくらの家まつり」を中止した。代わりに土曜日活動の中で、規模を縮小して利用者の方の楽しめるイベントを開催した。

ワクチン接種の2回目、3回目を夏にさくらの家で行い希望された利用者職員に実施した。

施設全体として消毒や換気、空気清浄機の設置など感染対策を行い、感染拡大防止に取り組んだ。手指消毒設備や、体温測定器、密を避ける

ためのリモート設備などを整備し感染対策に努めた。

③ 交通事故防止

毎朝の朝礼、研修等を通じて安全運転の励行、送迎体制の充実を図り、交通事故防止に努めた。しかし、交通事故は複数回発生したため、さらなる事故防止の呼びかけを徹底した。

④ 防犯対策

外部からの不審者侵入に対し、職員への啓発や防犯器具の設備を行い緊急時に備えた。また、公民館、自治会、警察、近隣の世帯等とも連携を図り、安全確保に努めた。

(1 1) 利用者の健康管理対策、高齢化への対応

利用者の方の糖尿病・高血圧・てんかん・慢性疾患等への配慮や、佐貫囑託医師や看護師の健康チェック、定期健診などを通して健康管理に努め適正な服薬管理や支援を行った。

(1 2) 余暇活動支援

土曜日活動や年間イベントを通し利用者の生活をより豊かに、生きがいをもって送ることができるように計画した。土曜日活動では、活動を制限したりしなければならなかったことが多かったが、活動内容を工夫し感染予防をしながら楽しめる内容を提供するよう努めた。イベントは規模を縮小して行い、春祭り、秋祭り、クリスマス会を行った。リモート設備も活用し感染対策を行ったうえで開催し、少しでも利用者の方々の楽しみを作ることができた。また仲間旅行は、個別化や密を避けるなどの対策をし、小規模ながら行うことができた。

(1 3) 各団体との連携事業

① 松江市社会福祉協議会

喫茶いこいを通じ、地域福祉や社会貢献について松江市社協との連携を行うことができた。「いこい食堂」は、コロナ禍により長期にわたり休止が続いている。

② NPO 法人福祉ネットだんだんネ

障がい福祉事業所の連携団体である「だんだんネ」に所属し、情報共有と

共同事業を行うことで松江市での事業所間のネットワークを継続した。

③ 島根県中小企業家同友会

様々な企業と連携することにより、障がい者が住みやすい地域づくりを行うため、中小企業家同友会の研修会や定期例会、障がい者問題研究会に参加した。

④ 地域との連携

地域との交流する機会が新型コロナウイルスの影響でほとんどできなかった。

2. 理事会・評議員会・監事会

(1) 理事会・評議員会

開催年月日	場 所	出席者	議事及び議決事項
R3. 6. 11 令和 3 年度 第 1 回理事会	げんき 工房	理事 8 名 監事 1 名	(1) 報告事項 理事長職務執行状況報告 (2) 決議事項 ・令和 2 年度事業報告及び計算関係書類並びに財産目録の承認について【監査報告】 ・評議員選任・解任委員会に対する評議員選任候補者の推薦について ・次期評議員選任・解任委員会委員の選任について ・定時評議委員会に対する次期理事及び監事の候補者の推薦について ・評議員選任・解任委員会の招集について ・定時評議委員会招集について
R3. 6. 29 令和 3 年度定 時評議員会	げんき 工房	評議員 9 名 理事 1 名 監事 1 名	(1) 報告事項 ・令和 2 年度事業報告について (2) 決議事項 ・令和 2 年度計算書類及び財産目録の承認について ・次期役員選任について
R3. 6. 29 令和 3 年度第	げんき 工房	理事 6 名 監事 1 名	(1) 報告事項 ・令和 3 年度定時評議委員会の状況

2 回理事会			について (2) 決議事項 ・理事長の選任について
R3. 10. 25 令和 3 年度第 3 回理事会	げんき 工房	理事 8 名 監事 2 名	(1) 報告事項 ・理事長職務執行状況報告について ・上半期事業報告 (2) 決議事項 ・グループホーム建設に係る土地取得について
R3. 11. 26 令和 3 年度第 4 回理事会	げんき 工房	理事 8 名 監事 2 名	(1) 決議事項 ・就労継続 B 型事業くすの木弁当班増築工事契約内容・方法の決定について ・就労継続 B 型事業所くすの木弁当班増築工事指名競争入札に係る指名事業者選定基準の決定について ・就労継続 B 型事業くすの木弁当班増築事業指名競争入札に係る指名業者の選定について
令和 3. 12. 20 令和 3 年度第 5 回理事会	げんき 工房	理事 7 名 監事 2 名	(1) 決議事項 ・就労継続 B 型事業くすの木弁当班増築工事の契約締結について (2) 報告事項 ・虹売店の閉店について報告
令和 3. 3. 15 令和 3 年度第 6 回理事会	げんき 工房	理事 8 名 監事 2 名	(1) 報告事項 ・理事長業務執行状況 (2) 決議事項 ・準職員就業規則の一部改正 (案) ・職員給与規程の一部改正 (案) ・準職員給与規程の一部改正 (案) ・各事業所運営規程の一部改正 (案) ・令和 3 年度補正予算 (案) ・令和 4 年度さくらの家事業計画並びに収支予算 (案) について
令和 3. 3. 29 令和 3 年度臨 時評議員会	げんき 工房	評議員 7 名 理事 1 名 監事 1 名	(1) 決議事項 ・令和 3 年度さくらの家補正予算 (案) について ・令和 4 年度さくらの家事業計画 (案) 並びに収支予算 (案) について (2) その他 ・令和 4 年度職員体制について

(2) 監事会

開催年月日	場 所	出席者	議事及び議決事項
R3. 6. 7 令和 3 年度監 事監査	共用棟 2 階 理 事 長 室	監事 2 名	・令和 2 年度理事長等の職務執行状 況について ・令和 2 年度計算関係書類及び財産 目録の監査について

3. 虐待防止委員会

開催年月日	場 所	出席者	議事及び議決事項
R3. 12. 21 令和 3 年度第 1 回	げんき 工 房 食 堂	委員 12 名	・ヒヤリハット事件事案について ・令和 3 年度を振り返って

4. 助成金事業

助成団体名・事業名	事業費総額	助成額	購入月日
令和 3 年度島根県障がい者福祉施 設整備費補助金（新型コロナウイルス 感染症対策に係る特別事業） 「くすの木弁当班増築工事」	21,780,000 円	10,738,000 円	R4 年 3 月 25 日
松江市障がい福祉分野における ロボット等導入支援事業補助金	851,300 円	851,000 円	R4 年 3 月 23 日
2021 年度日本財団補助施設の修 繕・改造等に関する助成事業 「石鹼班・委託班等照明、シーリ ングファン、共用棟手すり、防水 シート修繕工事」	5,600,000	4,045,000	R4 年 3 月 23 日

令和3年度社会福祉法人さくらの家事業動向

月	日	内 容
4	1 13・14	令和3年度「年度初め式」 さくらの家職員令和3年度事業計画等説明会
5	14 15	NPO法人福祉ネットだんだんネ理事会・総会 さくらの家春まつり
6	2 3 5 19	仲間の皆さん健康診断 ～7月上旬 さくらの家内部監査 福祉・保育の就職フェアしまね さくらの家ミニ運動会
7	7 29	豪雨により乃白町内県道擁壁土砂崩れ（～19日、八雲・玉湯に迂回して送迎実施） 新型コロナワクチン集団接種（さくらの家）
8	2 5 6 19 23 26	グループホームたいよう家族会 新型コロナワクチン集団接種（さくらの家） 島根県立大学実習受け入れ ～8/27 新型コロナワクチン集団接種（さくらの家） 第1回グループホーム建設検討委員会 新型コロナワクチン集団接種（さくらの家）
9	4 6	さくらの家職員研修会 島根県立大学実習受け入れ ～9/17
10	4 16 21	第2回グループホーム建設検討委員会 さくらの家秋まつり インフルエンザ予防接種（嘱託医佐貫先生）
11	6 8 24	さくらの家ミニ運動会 第3回グループホーム建設検討委員会 忌部小学校との交流会
12	4 18 20 21 28	アート作品展表彰式 さくらの家クリスマス会 くすの木弁当班増築工事入札会 虐待防止委員会 仕事納め式
1	5 15	仕事始め式 成人を祝う会（施設内リモート開催）
2	4	短期入所事業関係職員会議
3	19 22 25 30 31	さくらの家職員研修会 総合避難訓練（さくらの家本部施設） くすの木弁当班増築工事完成引き渡し くすの木弁当班増築工事中央新報社取材 年度終わりの会、お別れの会

令和3年度 ワークスペースさくらの家全体事業報告書

1、 事業概要

令和3年度のさくらの家就労継続支援 B 型事業は、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、12月に虹売店の撤退、会議や集会の中止による喫茶部門の低調と特注弁当の注文の減少等が続き売り上げが伸びなかった。ただ、虹売店の縮小営業からの撤退による大きな売り上げの減少があったにもかかわらず、全体の売り上げとしてはほぼ前年度の水準を保つことができたという点ではよかったと言える。また、利用者の平均工賃は26,247円となり、昨年度の25,488円を大きく上回ることができた。年度途中で利用日が少ない退所者が2名出たことで計算上の平均額が上がった形ではあるが、安定して仕事を提供することができ、売り上げを維持できたことは評価できる。また、年度途中で1名利用者を受け入れることができた。

2、 事業活動収支表（令和3年4月～令和4年3月）

令和3年度就労会計資料(R4.3.31)

単位：円

	就労継続					合計
	売店事業	弁当事業	喫茶事業 (ひまわり)	給食事業	喫茶事業 (いこい)	
【売上】						
売 上	894,205	10,009,655	1,548,256	7,412,250	3,241,940	23,106,306
その他収益	0	0	31,000	0	0	31,000
売上合計	894,205	10,009,655	1,579,256	7,412,250	3,241,940	23,137,306
【原価】						
材料費計	580,835	3,782,060	776,157	4,280,787	1,823,775	11,243,614
利用者工賃	288,830	1,695,480	1,745,370	936,570	1,148,880	5,815,130
経費	0	1,831,674	218,992	1,677,632	303,202	4,031,500
【原価合計】	869,665	7,309,214	2,740,519	6,894,989	3,275,857	21,090,244
【一般管理費合計】	31,630	839,216	336,495	403,328	379,842	2,040,561
文書合計	901,345	8,148,430	3,127,014	7,298,317	3,655,699	23,130,805
収支残高	△ 7,140	1,861,225	△ 1,547,758	113,933	△ 413,759	6,501
事業合計			6,501			6,501
収支残高			6,501			6,501

○工賃支払い実績 平均工賃月額 26,247円 目標工賃月額 25,000円（達成）

令和3年度 ワークスペースさくらの家 くすの木弁当事業報告書

1、事業実施状況

新型コロナウイルス感染者数の増減に伴い学校関係や会議等がないため特別注文も全くなかった。そのため例年より注文数が減少した。7、8、1月（学校関係は休み）を除き、平均85個のお弁当を毎日利用者と工夫しながら製造した。

さくらの家職員の弁当注文も毎日少しあり利用者の仕事にもつなげられていたように思う、

○利用者の状況

毎日利用の方が4名、週1日利用の方が1名、途中から利用の方が1名で、それぞれのニーズに合わせた仕事内容の提示をし、分担して作業に携わってもらうことができた

① 盛り付け作業

量を調節するようなものに関しては、見本を作りわかりやすい内容にした。また、ご飯の盛り付けなど量りで計測できる作業を提示した。

② 配達・回収作業

配達時に笑顔で礼儀正しい挨拶の徹底をした。また、出来る方には集金時のお金の計算、チケットの枚数の確認もしてもらった。回収も一人で行ける方にはお願いをした。

③ 仕込み・調理作業

出来る内容に合わせて、積極的に仕込み・調理作業に参加してもらい達成感を味わってもらった。

④ 洗浄・清掃・洗濯作業

洗浄機が扱える方、清掃を丁寧に行える方、洗濯機が使える方それぞれの力に合わせた作業を行った。

2、サービス提供体制

利用者6名 職員4名（正規1名 臨時1名 パート2名）

3、年度目標への取り組み

①利用者それぞれの目標を決め、達成出来たら年度末に表彰することで働くことへのモチベーションにつなげていく。

○個々の目標を達成することが出来た。年度末に表彰することで仕事に対する意気込みが強まった。

②1日平均80個の弁当販売を目指す。新規顧客開拓を目指して様々な事業所への営業を行っていく

○7・8・1月以外の月の目標は達成した。配達先としての新規顧客はなかったが各事業所内での注文個数が徐々に伸びたところもあった。

内容として季節感のあるメニュー作り（忌部産の野菜を取り入れる）（職員駐車場の畑でサツマイモ、大葉、パセリ、ねぎを育てた）新しい食材を取り入れる、飽きの来ない料理方法、盛り付けの工夫（おかずカップ）など心がけた。

③くすのき弁当に親しんでもらうために「くすのき弁当だより」を不定期で発行しPRにつなげていく。

○販売促進の方に力を入れていたため、広報活動に手が回らず、結果として発行することが出来なかった。

1、事業実施状況

喫茶店運営としては、菓子製造業を縮小して行った。排水管更新工事のため4月1日～4月16日まで営業ができなかった。新型コロナウイルス感染症の影響もあり来店数も少なく、生協病院職員の利用がほとんどだった。売上は予算の84%という結果になった。

病院内部の顧客獲得の為、病院内にチラシやメニュー表を配布し宣伝したところ、ある程度の効果が認められ、少しずつではあるが集客につなげることができた。

副菜を2品にすることで顧客が増えた。半面原価率が上がっている。

喫茶店と菓子製造業の同時並行運営に関しては、保健所からの指導もあり、やり方の改善をして行った。販売は店内やテルサ販売、県庁販売、生協病院関連注文販売、いこいででの販売となった。

① 喫茶

ランチを注文する人が多く、喫茶メニューはあまり出なかった。利用者の接客マナーの向上にも努めた。

② 焼き菓子製造

店内販売、生協病院関連注文販売、テルサ販売、県庁販売、いこいででの販売となった。

③ 弁当配達・回収

くすのき弁当の配達回収を行った。来店されないお客様との関係づくりや、利用者の顔を覚えてもらうことにもつなげることができた。

2、人身体制

◎利用者 5名（毎日利用4名、週4日利用1名）令和3年11月26日付で週4日利用1名が退所された。→令和3年12月より：4名（毎日利用）

◎職員 2名（正規1名、パート職員1名）

3、年度目標への取り組み

①ひまわりに来店されるお客様や、弁当配達先のお客様を通して、接客にとって大切なマナーやコミュニケーションや衛生面を身につけていく。

○朝礼時に挨拶の練習を行い利用者の声出しがスムーズになった。また、手洗いの徹底に取り組み、衛生意識の向上に努めた。

②お客様がまた来たいと思えるような雰囲気づくりや喜んでもらえる食品の提供に心掛ける。

○開店前の掃除に加え、時間がある時は店内の掃除をするように促し取り組んだ。掃除が必要な場所は職員が提示し掃除してもらった。

○旬の食材を取り入れ副菜、汁物を作るよう心掛けた。副菜を2品にして提供している

○季節の装飾や花を飾るなど、店内でゆっくり過ごせるようなお店作りを行った。

③年に数回、ひまわりの皆で各自担当のコーヒーの淹れ方、接客についての勉強会をする機会を設ける。

○仕事の合間にコーヒーの淹れ方の説明、練習を行う機会を作れた。

令和3年度 ワークスペースさくらの家 キッチンすまいる事業報告書

1. 事業実施状況

事業所の給食として、食の安全を守るとともに、利用者の好みや食べやすさなどに配慮し、個々のニーズに合わせた給食提供に努めた。利用者が楽しみにできる給食として一定の評価を得ることができた。また、季節に応じたメニューを積極的に取り入れ土用の丑の日にはウナギを出し利用者・職員に喜んでもらうことができた。利用者の作業では、それぞれの課題に対し、作業時間を掲示したり作業をする場所を決めたりとそれぞれの利用者の力に合わせて行った。

- ・食器出し

食器がいつもと違う日には、はじめに使う食器を提示した。

- ・盛り付け

個数が決まっているものや、量がいつも同じものなど分かりやすいものにした。

- ・調理補助

包丁を扱う作業は、見本を作り提示した。出来る内容は積極的にできた。

- ・仕込み

あまり出来なかったが野菜の皮むきなどをした。

- ・食器洗い・洗淨・掃除

初期洗いが丁寧に出来る人、洗淨機や片付けが得意な人、それぞれに合わせた作業をした。

2. 人員体制

◎ 利用者 3名 ◎ 職員 3名

3. 令和3年度目標への取り組み

- ①キッチンすまいるで働く仲間の作業のことを知ってもらうために、作業の様子を、SNSを使うなどして発信していく。
- 職員朝礼時に出来事や様子を知らせることで、他の職員から声掛けをしてもらえたりして達成感につながられた。SNSを使つての発信はできなかった
- ②職員や利用者同士の声掛けなどを積極的に行い、働くことへのモチベーションにつなげていく。
- 朝礼・終礼時の挨拶や、作業中の声掛けなども頻繁に行いコミュニケーションづくりに努めた。また、作業がうまくいったり、自発的な行動が見られたときは称賛し、働くことへのモチベーションにつなげることができた。

令和3年度 ワークスペースさくらの家 喫茶いこい事業報告書

1. 事業実施状況

コロナ禍に影響で売り上げが落ちることが懸念されたが、インスタグラムやフェイスブック等のSNSで発信をした効果もあってか初めてのお客様もあり、約20万円の売り上げ増になった。

① 喫茶

感染予防の観点から受付コーナーにビニールシート、消毒をおき、テーブル各所につい立てをし、椅子を減らして来客数を制限、テーブル、椅子をお客様が帰られる度に消毒した。

また、スタッフ全員、マスク、手洗い、消毒、手袋を着用し感染予防を徹底して行っている。館内職員さんのランチ注文数が一定数あり、全体的には大きく売り上げが落ち込むことはなかったが、ランチタイム以外の時間の来客が少なく、飲み物等の売り上げは少なかった。

② くすのき弁当販売

くすのき弁当の注文はほとんどない。いこいでのランチ数が増えたことと、センター内での集会や会議が少ないためと思われる。全館にメニュー表を配布し、販売促進に努めた。

2. 人員体制

◎ 利用者 4名 ◎ 職員 2名 (正規 1名、パート 1名)

3. 年度目標への取り組み

①旬の野菜を使った食事を提供する

○旬の食材を使いランチを作ることで「野菜がしっかり摂れる」ランチとしてのイメージが定着しつつある。一人暮らしや高齢のご夫婦でのお客様もコンスタントに来店があった。

②店内に季節の装飾をし、お客様に楽しんでいただけるような雰囲気作りをする

○なるべく季節の花を飾り、目で楽しめる空間づくりを心掛けた。

③年に数回接客や衛生面について勉強する

○改まった勉強会を開くことはできなかったが、利用者、職員に衛生面を配慮したチェック表を作り、一人一人に衛生面、感染症への配慮の意識を持ってもらえるよう心掛けた。

③ フェイスブックやインスタグラムでの記事を不定期に発信、喫茶いこいのPRにつなげていく。

○一週間に2～3回SNSで、本日のランチメニュー、季節ごとに飾ったテーブルの花、料理、食材などの写真をアップし、発信を続けた。その効果もあったようで初めてのお客様も多くあった。

⑤いこい会議（正規職員、パート職員）で仲間の特性や作業内容について共有し、振り返りをしながら支援していく

○いこいの職員間で仲間の特変事項を共有し、そこにどんな原因があったのかをその都度話し合った。現在、仲間はとても落ち着いて自分の仕事をこなしている。

令和3年度 ワークスペースさくらの家 虹売店事業報告書

1、事業実施状況

令和2年度6月より新型コロナウイルスの感染予防対策による介護医療院からの要請で、火水木の週3回午前中にのみ介護医療院の居住スペースに訪問販売するという時間も場所も限定された中で営業を続けてきた。売り上げアップと利用者の仕事の確保のためにいきいきプラザへの出張販売を行ったが、大きな売り上げに結びついたとは言い難く、回数も限られていた。売店再開の見通しが立たず、今後も不特定のお客様が院内に出入りする状況に戻っていく可能性が低いとの見解と、販売が限定的であり売り上げの大幅な増額が見込めないこと、売店担当の利用者の売店作業がないときの仕事確保が難しく、仕事の提供が不安定なことからくる利用者への精神的負担も考え、介護医療院との協議の結果令和3年12月末をもって売店事業から撤退することとなった。1月以降は、利用者は他の班へ移り、職員も職員が不足している部署への応援体制で対応することとなった。

2、サービス提供体制

利用者1名 職員1名 (売店業務がない日は他の班に合流して作業)
12月閉店以降は弁当班での勤務となる。

3、年度目標への取り組み

①笑顔で礼儀正しい接客を心掛ける。

○訪問販売となり、より一層礼儀正しい接客を心がけお客様に丁寧に対応できた。

②マスクの着用や消毒の励行を行い感染対策の徹底を図る。

○特に感染対策には気を配り、マスク着用や消毒を徹底して行うことができた。

③1か月の売り上げ目標を決め月末に確認することで、次の月へのモチベーションにつなげる。

○売り上げ目標に対して具体的な売り上げアップの方法を模索しながらの販売であった。お客様のニーズに合わせた商品を選び、人気商品が目にとまりやすいようにディスプレイするなど目標達成のために工夫した。

1、事業実施状況

石けん作業に関しては、年度途中で入院された利用者が主にやっておられた作業を他の利用者で分担して作業を行うことで、個々の作業の幅を広げることができた。農作物生産に関しては、柿が不作だったものの、新たな作物の生産に取り組むことで売上向上に繋がった。

① 石けん作業

石けんの受注数に関しては、保育園などを中心に固定のお客様から年間を通じてある程度安定して注文をいただくことができたが、バザーなどの販売機会が激減したため、売り上げが伸びなかった。

② 野菜、委託作業

農作物生産に関しては、柿が不作だったが、他の作物の売り上げによって補填することができた。ダイレクトメール作業に関しては、受注数が大幅に減少したため、売上げが減少した。(約7400枚→約5800枚)

③ 物品販売

夏季、冬季のカタログ物品販売においても石けんの受注数に関しては、例年に比べると減少した。しかし、物品販売全体では目標を達成することができた。

2、人員体制

◎利用者 7名 ◎職員 2名(正規 1名、パート 1名)

3、年度目標への取り組み

①利用者一人一人が安心して取り組める作業環境の形成を図っていく。

○利用者の調子を見極めながら、作業(作業環境)の提供を行なうことができた。

②石けん班での様々な作業や活動を体験してもらうことで、利用者それぞれの持つ可能性を追求していく。

○石けん作りや野菜作りの様々な作業の中で、利用者それぞれの出来ることを見極め、能力に見合った作業の提供に加え、新たな作業にも取り組んでもらった。

③利用者の自立の支援と日常生活の充実を図ることを目指し、ご本人の見通しや達成感を持つことが出来るような声掛けを工夫していく。

○一日の作業の流れや変更事項など朝礼、終礼を通じて漏れないようにお伝えし、日々の声掛けでは『感謝』の声掛けを意識しておこなった。

④野菜作りを通じて地域の方々と交流し、利用者に野菜を育てる苦勞や収穫の喜びを感じてもらう。

○ハウス周辺で作業をされている地元住民の方々と挨拶を交わしたり、作業のアドバイスや農作物を頂いたりなどして、交流をはかることができた。

令和3年度 生活介護事業所さくらの家 委託作業班事業報告書

1. 事業実施状況

今年度も引き続き新型コロナ感染拡大防止のため、出張販売がほとんどできなかった。

ダイレクトメールの数もかなり減り、収入にかなり影響が出た。エリエールのキャップ付けや、賞状貼りなどの新しい委託の仕事もあったが、年間の売り上げは昨年度に比べ減少した。

2. 人員体制 利用者 14 名 (1 班 8 名、2 班 6 名) 職員 4 名 (1 班 2 名、2 班 2 名)

3. 事業内容

①縫製作業

・販売がほとんどないため、様子を見ながら制作するようにした。

○がま口 ○きんちゃく袋 ○印鑑ケース ○コースター ○くるみボタン
○ティッシュケース ○きょうされんふきん 等

②委託作業

利用者一人一人に合った作業を提供した。無理のない目標数を視覚でわかるよう準備し、やりがいや達成感もてるよう支援した。

○生協病院からのダイレクトメール ○大昌株式会社からの段ボールの組み立て、仕切り組み立て、ばらし、箱折り等 ○風流堂の箱折り、穴あけ等
○㈱プラテックヤマヨシより、ウエットティッシュのキャップ組付け作業
○しまねなかばやしより賞状の貼り付け作業を期間限定で請け負う

③塩麴づくり

塩麴は物品販売等で定期的に販売する機会があり、年間 200 個以上の売り上げがあった。賞味期限が半年しかないため、ロスを出さないよう 1 回の仕込みで 20～30 個程度と、小ロットでの製造を心掛けた。

④出張販売・営業

新型コロナ感染防止のため、販売はほとんどできなかった。
(ゆーゆ、テルサ等)

⑤物品販売

作業を分担して行うことで円滑に作業できた。塩麴がよく売れた。

4. 年間目標への取り組み

- ・個々に合った作業を提供し、時間内にやり遂げることで達成感を味わえるよう支援した。
- ・新しい作業が来た時には見本を見せたり、一緒に取り組むことでスムーズに作業できた。

令和3年度 生活介護事業所 げんき工房事業報告書

1、事業実施状況

新型コロナ感染対策も2年目になり必要な感染対策を取りつつも、楽しく有意義な活動ができるよう計画することが出来た。感染対策で活動の形や内容に変化があったものの全体的に落ち着いて活動することができ、なかまひとり一人に丁寧に関わることができた。

利用者一人一人の強みに着目し、それぞれのニーズに合わせた取り組みを個別の視点で行った。

○利用者の状況

班名	利用者数	職員配置
なごみ班	9名 (月6、火7、水6、木6、金7)	5名
うみだす班	8名 (月6、火8、水7、木7、金6)	3名
そだてる班	10名 (月9、火7、水7、木9、金8)	4名
きらめき班	6名 (月4、火6、水5、木6、金5)	2名

※班に所属しない職員 (GL) 1名

2、人員体制

◎利用者 35名

◎職員 18名 (正規職員8名・臨時職員4名・パート職員4名・看護師2名)

3、年度目標への取り組み

<そだてる班>

- ・季節の行事をみんなで楽しむことができた。
- ・コロナ禍でできる範囲で地域交流ができた。
- ・畑作業を仲間の力に合わせて仕事を分担して行うことができた。職員などを中心にさくらの家内部への野菜販売を行った。
- ・なかま一人ひとりの特性や希望に沿った活動を工夫して行った。
- ・運動を積極的に活動に取り入れ、健康維持に努めた。

<うみだす班>

- ・なかま一人ひとりの希望に寄り添い、柔軟に対応できた。
- ・コロナ感染対策の影響で作品の販売の機会がほとんどなかった。

- ・なかまの作品を作品展に出展するなど内外に活動を発信することができた。結果として作品が賞を取ることもでき、みんなで喜び合うことが出来た。
- ・Tシャツ販売も好評で、売り上げが好調。施設内外での販路が拡大した。

<なごみ班>

- ・リラックスできる環境の中で、散歩やストレッチ、足浴や散歩など体へのアプローチができた。減量を意識した運動にも力を入れることができた。
- ・コロナ感染対策の中で可能な範囲で、季節を感じられる活動や社会経験を積める活動など外へ出ていく活動も取り入れ、白鳥号にのって宍道湖クルーズを楽しむことが出来た。
- ・季節に合わせた制作活動として、花の苗づくりをした。ミニひまわりをきれいな鉢に植えて販売し好評を得ることが出来た。

<きらめき班>

- ・常に日々の行動の変化に気を配り、その変化に対応しながら落ち着いて過ごせるよう対応した。
- ・活動を事前に伝えたりボードを使用するなど予定を示し、時間配分や事前準備を整えて、見通しを持って落ち着いて活動に取り組めるようにした。
- ・年度後半に職員の退職などの環境の変化に伴い、調子を崩す仲間もいた。全体共有を行い、個別に対応策を行った。

<全体>

- ・コロナ感染対策で密を避けるため、ミュージックケアを火曜、水曜、金曜の午前中に3班に分けて実施した。外部講師への依頼は行うことが出来なかった。
- ・全体活動で運動を水曜と木曜の午後の2班に分かれて実施した。ゲームやダンスを取り入れて楽しく身体を動かす機会が増えた。また、東部センターよりOTの派遣事業を受け、なかまにも職員にも有効なストレッチや体の動かし方、介助の方法などを根拠立てて教えてもらう事ができた。
- ・野菜、Tシャツの売り上げは伸びたものの、新型コロナの影響でバザー出店が無かったためその他の作業製品の売り上げが減少した。
- ・入浴サービスが必要な利用者に週3回を限度に提供することができた。入浴サービス希望の増加に応じる事ができている。
- ・コロナ感染対策として、秋の小旅行を各班で企画して行った。班の中でも行き先や目的をなかまと相談しながら計画し、それぞれが満足できる外出ができた。今後もなかまの希望にそった個別の外出を増やしていけるとよい。

令和3年度 共同生活援助 もみじホーム事業報告書

1. 事業実施状況

3つのグループホームすべて満床状態であるが、グループホームへの入居希望もあるため、新規のグループホームの立ち上げに向けて、物件を探したり、実際に見学へ行ったりした。しかし、年度内には具体的な物件の契約を行う段階までには至らなかった。

2. サービス提供体制

○管理者 1名（兼務） ○サービス管理責任者 1名（兼務）
○生活支援員 5名 ○世話人 10名

職員配置	日 勤	夜 勤	調理職員（夕食）
たいよう	2名	3名	1名
すばる	2名	2名	1名
すみれ	3名		

利用者の状況

	男性	女性	計
たいよう	5名		5名
すばる	5名		5名
すみれ		6名	6名

3. 年度目標への取り組み

- ①地域交流をキーワードに、利用者と地域の人たちとの橋渡しになるような資源を開発していく。
 - 公民館活動、地域行事等が中止になることが多く、地域の交流はあまり広げることができなかった。ただ、近所の美容室やコンビニのスタッフの方には利用者の顔や名前を知ってもらうことができた。
- ②長期連休に、余暇の充実に力を入れていく。
 - コロナ禍で外部へ出かける機会は制限を受けたが、密を避けて外出計画を立てるように心がけた。
- ③知的障害を伴う自閉症の利用者が多くいるため、スタッフは個々の障害特性を知るために学び、特性に合わせた環境を作る。
 - 定期的に事例検討会を設け、課題となる行動に対してどうアプローチしていくのか、スタッフ間で共有を行った。
- ④職員のスキルアップのため、毎週ミーティングを行いスーパービジョンの場を設ける。また、行っている実践を研修等で積極的に発信していき伝える力を伸ばしていく。
 - 各月一回全員集まって、事例検討会を行った。他部署のスタッフも一緒に行い様々な視点を学ぶことができた。引き続き継続し、会議の進め方、議論をするときの技術を高めていく。

1. 事業実施状況

コロナ渦での支援ということで、外出支援の利用を控えられる方が多かったです。感染状況を注視しながらご家族と相談しながら行うことができました。支援を行った方については感染症対策を行った上で概ね計画通りの支援を継続的に行うことができました。限られた人数での支援ということもあり、今年度も兼務の職員さんの応援を受け支援を行った。

ヘルパー間での課題の共有をもっと行っていく必要があったため、月1回の居宅会議の定期開催を行い、支援の課題を共有し、解決策を話し合うことができました。個々の支援に対する姿勢や、取り組み方など以前に比べ高めることができています。

職員個々の支援のスキルアップについては、コロナ渦でなかなか研修会への参加はできなかったが、日々の支援を行う上で少しずつ高めていくことができた。

2. サービス提供体制

管理者	1名（兼務）
サービス提供責任者	1名（兼務）
常勤ヘルパー	3名
登録ヘルパー	4名

3. 各サービス利用人数・利用時間数（※延べ人数）

種別	登録人数	利用人数	利用時間数
行動援護	8人	482人	2813時間
居宅介護	7人	865人	1307.5時間
通院介助	4人	45人	107時間
家事援助	3人	422人	342.35時間
移動支援	24人	300人	961時間

4. 年度目標への取り組み

① 利用者の思いに寄り添い、相談に乗り、適切に支援を行う

○重度の知的障がいの利用者が多い中で、一人ひとりの思いに寄り添い支援を行っていくことを心がけた。また、他事業所とのケース会に積極的に参加し、その人にとってより良い支援の方法を検討しながら支援を行った。

② ヘルパー一人ひとりが自己研鑽に努める

○強度行動障害支援者養成研修、介護福祉士の資格取得、ホームヘルパーフォローアップ研修への参加などスキルアップを図った。また、現在の課題をしっかりと把握して支援に取り組み、日々の支援中も個々で考えながら課題解決に取り組めた。

令和3年度 相談支援事業所さくらの家 事業報告

1. 事業実施状況

(計画相談支援・障害児相談支援)

3月末時点での計画相談支援利用者数は94名。障害児相談支援利用者2名。

(松江市障害者相談支援事業)

計画相談支援につながらない、基本相談支援利用者の月平均対応件数は6.8件。定期的な訪問に加え、行政や医療機関等への同行支援もおこなった。

また、サポートステーション絆に月1～2回勤務し、市民からの相談にあたった。

2. 人員体制

○管理者 1名(常勤職員・兼務)

○相談支援専門員 2名(常勤職員・専従2名)

3. 年度目標への取り組み

○相談支援専門員の質の向上

・島根県相談支援専門員協会の研修に5回参加。

・島根県主任相談支援専門員養成研修を修了。

・松江市相談支援事業所連絡協議会に加入し、毎月1回地域の相談支援事業所との情報交換、研修等をおこなった。

・島根県相談支援従事者養成研修にファシリテーターとして参加。地域の人材育成にあたった。

○相談支援年間目標数

地域移行支援を1件おこなうことを目標としていたが、該当ケースがなく、実施しなかった。

令和3年度 短期入所事業報告書

1. 事業実施状況

女性職員が1名増えたことで、女性は週2日(水、木)で対応した。男性も月曜(隔週)と毎週火曜日で対応した。昨年に比べ開所日が増え連泊希望にも対応できた。朝、夕の業務が大変な時は、職員がヘルプに入り二人体制で対応した。

2月に短期入所会議を開き、職員の勤務状況を話し合った。重度の方の利用が多いので負担軽減のためリフトなどの介助器具を取り入れた。

2. サービス提供体制

夜勤職員(男性2名・女性3名)

短期入所担当職員2名(兼務)

3. 短期入所事業利用実績表

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

月	開所日数	利用日数	述べ利用者数		
			男性	女性	合計
4	11	11	18	23	41
5	11	11	15	25	40
6	16	16	23	30	53
7	12	11	20	19	39
8	12	12	23	15	38
9	13	13	16	27	43
10	15	15	29	27	56
11	15	15	21	28	49
12	15	15	22	28	50
1	12	12	14	27	41
2	11	11	17	20	37
3	15	15	20	33	53
合計	158日	157日	238人	302人	540人

※7月7日は大雨のため利用中止となった。

令和3年度 松江市地域生活支援事業 日中一時支援事業報告書

1、事業実施状況

ご家族の事情などにより、利用される方が多い状況が続いている。2年度より少し減っているが、新規利用者も多い。

夕方の利用は、定員の6名を超えることが多くなっており、職員数を4人体制として対応した。4人体制になっても、送迎に関しては、その日の利用状況を見ながら担当職員全員に加え他の職員（日中一時以外の職員）に送迎依頼することで対応することもあった。

2、サービス提供体制

利用時間帯	職員配置数
15:30~19:00	3~4名

3、日中一時支援事業利用実績表

(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

月	稼働日数 (日)	男性 (人)	女性 (人)	入浴者 (人)	令和2年度実績	
					男性(人)	女性(人)
4	21	95	128	21	85	144
5	18	81	109	19	85	130
6	22	94	127	20	140	165
7	19	77	98	16	124	144
8	20	65	104	18	52	71
9	20	84	113	21	105	127
10	21	110	127	33	130	146
11	20	104	149	33	111	122
12	19	93	128	28	107	130
1	18	94	120	32	84	107
2	17	73	120	29	104	121
3	22	103	155	40	108	174
計	237	1,073	1,478	310	1,235	1,581

☆令和3年度における1日の平均利用者数：10.76人